



Title	ヒンディー語・ウルドゥー語の他動詞rakhnaa を用いた所有表現
Author(s)	今村, 泰也
Citation	大阪大学世界言語研究センター論集. 2010, 3, p. 261-283
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9314
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ヒンディー語・ウルドゥー語の他動詞 rakhnaa を用いた所有表現

今 村 泰 也

IMAMURA Yasunari

Abstract :

Possessive Expressions Using the Transitive Verb *rakhnaa* in Hindi and Urdu

In Hindi, predicative possession (X has/owns Y) is expressed periphrastically by case markers (postpositions) and the existential verb *honaa*, using expressions which literally translate into English as 'Y is near X', 'X's Y exists', 'Y exists to X', and 'Y is in X' (different constructions are used for different possessive notions). According to the literature on this subject, there is no possessive verb in Hindi. Indeed Hindi has no general possessive verb corresponding to English 'have', but occasionally possessive expressions using the transitive verb *rakhnaa* with the meaning 'to put, keep' are seen. On the basis of examination of corpus data and interviews with native speakers, it is claimed that (i) *rakhnaa* is mainly used for abstract possession (e.g. *She has the power to foretell the future*), (ii) *rakhnaa* may express concrete alienable possession, but in that case the possession is permanent and cannot be temporary, (iii) *rakhnaa* is almost never used for inalienable possession.

Urdu is linguistically the same language as Hindi, at least phonologically and grammatically, and expressions of possession were found to be virtually identical, including the expression of possession using *rakhnaa*, except for a slight difference in the expression of inalienable possession.

In this paper, I apply the grammaticalization theory and the framework of Heine [1997a], which is a comprehensive study of predicative possession in the languages of the world, to Hindi and Urdu. Some differences between *honaa* constructions and *rakhnaa* construction are also mentioned.

Keywords : Hindi and Urdu, possessive expressions, *rakhnaa*, grammaticalization, possessive notions

キーワード : ヒンディー語・ウルドゥー語, 所有表現, *rakhnaa*, 文法化, 所有概念

1. はじめに¹

所有 (possession) は普遍的な領域であり、いかなる人間言語も慣習化した所有表現を持つことが予測できる [Heine 1997a: 1]。例えば英語では have という動詞による所有表現があり、日本語では所有物の属性によって、「X は Y を持っている」、「X (に) は Y がある」、「X は Y をしている」などの表現がある²。ヒンディー語³ およびウルドゥー語 (後述) の場合、所有は存在動詞を用いて、「X の近くに Y がある」、「X の Y がある」、「X に Y がある」、「X (の中) に Y がある」のように自動詞文で表される (各構文には使い分けがある)。

先行研究では、「ヒンディー語 (ウルドゥー語) には英語の have に相当する所有動詞がない」と記述されているが⁴、本稿ではヒンディー語 (ウルドゥー語) にも一種の所有動詞があり、他動詞文の所有表現があることを指摘する。また、それが表す所有概念 (所有の種類) についても明らかにする。

Heine [1997a] は世界の言語の所有表現を包括的に扱った研究であり、本研究は Heine [1997a] の文法化の仮説と枠組みに基づいて行う。

本稿の構成は次の通りである。まず、2 節で本研究の前提となる Heine [1997a] の所有構文と所有概念の類型を概観する。この枠組みに基づき、3 節でヒンディー語の所有表現、4 節でウルドゥー語の所有表現を分析・考察する。5 節で本研究のまとめを行う。

2. 所有構文の類型

(1) 所有構文の種類と叙述所有の起点

所有構文 (possessive constructions) は、所有者と所有物の関係が句的な構造を持つ限定所有 (attributive possession) と文の構造を持つ叙述所有 (predicative possession) に大別され、叙述所有はさらに have 構文 ('have'-constructions) と belong 構文 ('belong'-constructions) に分けられる⁵。各構文の例は以下の通りである (Heine [1997a, b] の記述を整理した)。

1 本稿執筆の過程で3人のヒンディー語母語話者 (Paraj Vidyarthi & Puneeta Vidyarthi 夫妻 (30代), Nitin Mehra 氏 (20代)。3人ともインド・デリー出身) と1人のウルドゥー語母語話者 (Mohammad Anwer Memon 氏 (40代, パキスタン・カラーチー出身)) の協力を得た (以下、インフォーマントと呼ぶ)。この場を借りて感謝申し上げる。もちろん、本稿における誤りはすべて筆者の責任である。

2 「X は Y をしている」(例:「彼女は青い目をしている」)を所有表現と見るか、単なる属性表現と見るかについては議論の余地がある。

3 インド・ヨーロッパ語族=インド・イラン語派=インド語派に属する言語で、インド中北部で話されている。基本語順は SOV で、名詞に男性/女性の区別がある。

4 "Hindi does not have an equivalent of the verb "to have," so it uses different types of constructions to express possession or ownership." [Bhatt 2007: 26]
「ヒンディー語は親縁関係にある南アジアの多くの言語同様、所有の have 動詞を持っていない。所有を表現する場合には存在を表す動詞を用いる」[高橋 2003: 52]

5 have 構文と belong 構文の違いの一つに所有物の定性が挙げられる。have 構文の場合、所有物は典型的に不定 (indefinite) であるのに対し、belong 構文の場合、所有物は定 (definite) である (Heine [1997a: 30])。

- (1) 限定所有 例: 'Peter's car', 'my credit card'
 叙述所有
 a. have 構文 例: 'Peter has a car.'
 b. belong 構文 例: 'The car is Peter's.', 'The car belongs to Peter.'

Heine [1997a] は世界の言語における所有構文、とりわけ have 構文⁶を詳細に論じている。本稿の考察対象はヒンディー語およびウルドゥー語の have 構文であり、限定所有および belong 構文は扱わない。以下、本稿で「所有表現」と言うときは、上記(1)のうちの have 構文を指して言うものとする。

Heine [1997a: 45] は、所有は抽象的な概念領域であり、その表現はより具体的な領域から派生したものであるとし、その発展を文法化 (grammaticalization)⁷ 理論で説明している。そして、その文法化の起点 (source) に以下の 8 つのイベント・スキーマを設定している⁸ (下表 1: X は所有者、Y は所有物を表す)。

表 1 叙述所有表現に用いられるスキーマ [Heine 1997a: 47]

<i>Formula</i>	<i>Label of event schema</i>
X takes Y	Action
Y is located at X	Location
X is with Y	Companion
X's Y exists	Genitive
Y exists for/to X	Goal
Y exists from X	Source
As for X, Y exists	Topic
Y is X's (property)	Equation ⁹

本稿では他動詞を用いた所有表現を扱うが、これは上表の Action Schema に関する。Action Schema は 'take', 'seize', 'grab', 'catch' などの動作動詞 (他動詞) を使う型で、その発展のプロセスは(2)のように記述できる [Heine 1997a: 47]。英語をはじめ、多

6 ここで言う have 構文とは、(世界の諸言語における) 英語の 'X has Y' に相当する構文のことであり、所有動詞 (have 動詞) を用いた構文のことではないことに注意されたい。"In other languages, again, have-constructions can take quite a different form; instead of a have-verb, there may be a copula or even no verb at all. We may say that the have-construction in a given language is that construction which is used canonically to express 'I have a car' or 'we have no money.'" [Heine 1997b: 86]

7 Heine [1997a: 76] は、ある言語表現がその慣習的な意味 (M_1) に加え、より抽象的で文法的な意味 (M_2) を受けるプロセスを文法化と呼んでいる。

8 "Possession is an abstract concept in that it is hard to define in non-linguistic terms. It is therefore not surprising that people use certain conceptual templates to refer to it." [Heine 1997a: 76]

9 他のスキーマと異なり、常に belong 構文に関係する。

多くのヨーロッパの言語が Action Schema を用いて所有を表すが¹⁰、ヨーロッパ以外の言語にも Action Schema の例が見られる（下例（4）-（8））。

- (2) X takes Y > X has, owns Y
- (3) Portuguese (Indo-European, Romance)

O menino tem fome.
the child takes/has hunger
'The child is hungry.'
- [Heine 1997a : 47]
- (4) Nama (Central Khoisan, Khoisan)

kxoē. p ke 'auto.sa 'uu hâā.
person.M TOP car .F take PERF
'The man has the car.'
- [Heine 1997a : 47]

Action Schema に用いられる動詞は上に挙げたような動作動詞が典型的であるが、それ以外にも 'hold', 'carry', 'get', 'find', 'obtain', 'acquire', 'rule' などの non-dynamic あるいは inactive な動詞も用いられる [Heine 1997a : 48]。

- (5) Gooniyandi (Australian, Bunaban)

Nganyi marlami goorijigila yawarda
I not I.hold.it horse
'I don't have a horse.'
- [Stassen 2009 : 66]
- (6) Dullay (Eastern Cushitic, Afro-Asiatic)

lō'ō an-sheeg-a
cow I-carry-1.SG.IPFV
'I have a cow.'
- [Heine 1997a : 48]
- (7) Abun (Papuan, West Papuan)

Men yo ku sugum
1PL NEG get/have money
'We don't have money.'
- [Stassen 2009 : 595]
- (8) West African Pidgin English

dís kíng-boí nów gét kómbi fo gów…
'The prince hasn't a friend to go…'
- [Heine 1997a : 48]

10 “Although the roots for the verb 'have' vary across the Indo-European languages, as Meillet pointed out long ago (1923 : 10), their etymology is generally clear: the verbs share the same basic meaning 'grasp, hold', and so forth.” [Bauer 2000 : 187]

(2) 所有概念

Heine [1997a: 33-35] は通言語的・通文化的に区別されやすい所有概念 (possessive notions) として以下の7つを挙げている。

① 物理的所有 (Physical possession: PHYS)

当該時点において所有者と所有物が物理的に相互に関係している。

(9) I want to fill in this form; do you have a pen?

② 一時的所有 (Temporary possession: TEMP)

所有者は一定期間、所有物を自由に使用することができるが、その所有権を主張できない。

(10) I have a car that I use to go to the office but it belongs to Judy.

③ 永続的所有 (Permanent possession: PERM)

所有物は所有者の財産 (property) であり、一般に所有者は所有物に対する法的な所有権 (legal title) を持つ。

(11) Judy has a car but I use it all the time.

④ 分離不可能所有 (Inalienable possession: INAL)

所有物は身体部分や親族のように一般に所有者から分離できない (inseparable) と考えられる¹¹。

(12) I have blue eyes / two sisters.

⑤ 抽象的所有 (Abstract possession: ABST)

所有物は病気や感覚、心理状態など、目に見えない無形の概念である。

(13) He has no time / no mercy.

⑥ 無生物分離不可能所有 (Inanimate inalienable possession: IN/I)

11 Heine [1997a: 10] は分離不可能として扱われやすい概念領域に、(a) 親族、(b) 身体部分、(c) 相対的な空間概念 ('top', 'bottom', 'interior', etc.), (d) 他のアイテムの部分 ('branch', 'handle', etc.), (e) 身体的・心理的状態 ('strength', 'fear'), (f) 名詞化 ('his singing', 'the planting of bananas', etc.) を挙げている。さらに、言語によって 'name', 'voice', 'smell', 'shadow', 'footprint', 'property', 'home' なども分離不可能として扱われると述べている。

しばしば、部分・全体の関係と呼ばれるが、所有者が無生物という点で分離不可能所有 (INAL) と異なる。所有物と所有者は分離不可能と考えられる。

- (14) That tree has few branches.
My study has three windows.

- ⑦ 無生物分離可能所有 (Inanimate alienable possession : IN/A)
所有者は無生物で所有物は所有者から分離できる。

- (15) That tree has crows on it.
My study has a lot of useless books in it.

英語では上記の概念すべてを have で表すことができる。しかし、所有概念によって所有表現を使い分けている言語もあり、ヒンディー語もそうした言語の一つである。

以上、本節では Heine [1997a] の所有構文と所有概念の類型を概観した。次節ではこの枠組みに基づき、ヒンディー語の所有表現 (have 構文) を分析・考察する。

3. ヒンディー語の所有表現

(1) 先行研究

ヒンディー語の所有表現に関する主要な記述および研究としては、Bendix [1966], Kachru [1969; 1980; 1991], Hook [1979], Sinha [1986], Mohanan [1994], McGregor [1995], Verma [1997], Masica [1976; 1991], 高橋 [2003], Montaut [2004], Agnihotri [2007] などがある。先行研究の記述をまとめると、大要、以下のようになる。

- ① ヒンディー語には英語の have に相当する所有動詞がなく、所有を表現するには存在動詞 honaa¹² を用いる。
- ② 所有者 X は所有物 Y の属性あるいは Y との関係によって、所格、属格、与格のいずれかをとる。
 - (a) Y が本来的に自分に属していない具体物、すなわち分離可能所有物の場合（例：本、お金、車）、X は所格をとり、「X の近くに Y がある」という構文で所有を表す。

12 honaa は英語の 'be' に相当する動詞で、存在動詞のほか、助動詞、コピュラ動詞、一般動詞（なる、生じる、etc.）としても使われる。

- (16) rameś=ke paas do kaarē hāt.¹³
 ラメーシュ =LOC 二 車.F.PL 存在する.PRS.3PL
 「ラメーシュの近くに 2 台の車がある > ラメーシュは車を 2 台持っている」
 [Kachru 1980 : 122]
- (17) mere paas bāīk=mē bahut kam pūūjii jamaa
 1SG.GEN 近く.OBL 銀行 =LOC とても 少ない 貯金.F.SG 財.F.SG
 hai.
 存在する.PRS.3SG
 「私の銀行口座にはほんのわずかしか貯蓄はない」 [HJD0838I]

上例 (17) には mere paas 「私の近くに」 の他に場所句 bāīk mē 「銀行に」 があらわれている。この例から明らかなように、「X の近くに Y がある」という構文は所有物が文字通り「所有者の近くに」 なくても使うことができ、文法化した所有表現になっている。

- (b) Y が身体部分や親族など、X と密接不可分なもの、すなわち分離不可能所有物の場合、X は属格をとり、「X の Y がある」という構文で所有を表す。

- (18) raam=kaa ek beTaa hai.¹⁴
 ラーム =GEN.M.SG 一 息子.M.SG 存在する.PRS.3SG
 「ラームの 1 人の息子がある > ラームには息子が 1 人いる」
 [Mohanani 1994 : 177]

- (c) Y が抽象物の場合 (例: 風邪, 疑い, 権利), X は与格をとり、「X に Y がある」という構文で所有を表す。

- (19) sanvidhaan=mē harek=ko rozgaar=kii chuuT hai.
 憲法.M.SG=LOC 皆 =DAT 職業.M.SG=GEN.F 自由.F.SG 存在する.PRS.3SG
 「憲法では万人が職業選択の自由を有する」 [HJD1165I]

ヒンディー語には少なくとも上記 (a), (b), (c) の 3 つの所有表現が認められ、それぞれ、Heine [1997a] の Location Schema (Y is located at X), Genitive Schema (X's Y exists), Goal Schema (Y exists for/to X) に該当する。

13 ke paas は、属格後置詞 kaa の斜格形 ke と paas (近く／そば) を組み合わせた複合後置詞 (~の近くに) である。この構文では、所有者 X が所格補語、所有物 Y が主語としてコード化される。ヒンディー語には一致 (agreement) があり、存在動詞 honaa は統語上の主語である Y (ここでは kaarē 「車」) に一致する (現在時制では人称・数、過去時制では性・数に一致する)。

14 属格後置詞 kaa (または代名詞属格形) は後続名詞 (ここでは所有物 Y である beTaa 「息子」) の性・数・格に一致する。存在動詞 honaa は上例と同様、Y に一致する。

一部の先行研究および筆者はもう一つ、以下のような文も所有表現 (Location Schema に該当) と見なしている¹⁵。

- (20) raajuu=mē baRaa dhairyā hai.¹⁶
 ラージュー =LOC 大きな.M.SG 忍耐心 .M.SG 存在する .PRS.3SG
 「ラージューの中に大きな忍耐心がある > ラージューはとても忍耐強い」
 [Kachru 1980 : 122]

(2) 他動詞 rakhnaa を用いた所有表現

上述のように、先行研究ではヒンディー語には所有動詞がないとされている。確かに、英語の have のように汎用できる動詞はないが、他動詞 rakhnaa 'put, keep' が時折、所有表現に用いられる¹⁷。

- (21) vah do moTrē rakh-taa hai.
 3SG 二 車.F.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「彼は車を 2 台持っている」 [町田 1997 : 340]
 (22) vah antarikS vijñāan=kaa xaaasa jñāan rakh-tii hai.
 3SG 宇宙 科学 =GEN.M.SG 特別な 知識.M.SG rakhnaa-IMPF.F AUX.PRS.3SG
 「彼女は宇宙科学の特別な知識を持っている」 [BBCH060507_nasa_sunita]

ヒンディー語の現在時制は、「動詞の未完了分詞 + 助動詞 honaa の現在形」の 2 語で表される。上例 (21), (22) は他動詞文で、前節の存在動詞 honaa を用いた所有表現 (自動詞文) と異なり、述部は所有者 X (上例では vah 「彼／彼女」) の人称・性・数に一致する。

先行研究には rakhnaa を用いた所有表現に関する記述はほとんどない。筆者の知る限り、Hook [1979 : 81] が固有の特質の所有 (上例 (20)) が時折、rakhnaa で表されると述べ

15 筆者は Heine [1997a] の枠組みを用いて、ヒンディー語の (honaa を用いた) 4 つの所有表現を考察している。詳しくは今村 [2009] を参照されたい。

16 mē は英語の 'in' に相当する後置詞で、'X mē Y honaa' は普通、存在構文 (場所 X に Y がある／いる) として用いられるが、人 (または有生物) が持つ固有の特質 (例: 勇気、力、長所・短所) を表すのにも使われる。

17 rakhnaa はサンスクリット語の rakSaNa 'protecting, protector' を語源とする。なお、rakhnaa 以外に lenaa 'take' を用いた所有表現も見られるが、本稿では例を挙げるにとどめる。別途機会を改めて考察したい。

(i) haath=mē vah ek thailaa lie thii.
 手.M.SG=LOC 3SG 一 袋.M.SG lenaa.PFV.M.PL AUX.PST.F.SG
 「彼女は手に袋を持っていた」 [Mohan Rakesh, *Mis Pal*]
 (ii) striyāā aur laRkiyāā gaa-ne naac-ne=mē ruci
 女性.F.PL AND 少女.F.PL 歌う -INF.OBL 踊る -INF.OBL=LOC 興味 / 関心.F.SG
 le-tii hāī.
 lenaa-IMPF.F AUX.PRS.3PL
 「婦人や娘たちは歌や踊りに興味を抱くものだ」 [HJD11571]

ているのみである（ウルドゥー語の先行研究については4.（1）節で述べる）。

(23)	kyaa	tum	un=ke	saamne	jaa-ne=kii	himmat	
	Q	2PL	3PL.OBL=GEN	正面に	行く-INF.OBL=GEN.F	勇気.F.SG	
	rakh-te		ho?				
	rakhnaa-IMPF.M.PL		AUX.PRS.2PL				
	「君は彼らに立ち向かう勇気があるのか」						[Hook 1979 : 81]

一方、辞書では rakhnaa の語義の一つとして、‘to possess, to have (in one's possession)’ が挙げられている¹⁸。例えば、町田 [1997] 『ヒンディー語動詞基礎語彙集』では、rakhnaa の語義は以下のように記述されている（下線は筆者による。一部の語義は略記した）。

- ①（ある位置に）置く；（人を）配置する， ②（肩に）担ぐ；（頭に）載せる；（帽子を）かぶる， ③（足を）踏みいれる， ④（自分の手元に）置く， 預かる， ⑤（抵当に）入れる；供託する， ⑥（裁判で）（証拠・主張・罪科を）提出する；（会議で）（案などを）提案する， ⑦（名前を）つける， ⑧（ある状態に）置く， 保つ， 保留する， ⑨（人を）（家に）おく；（妾を）おく；（使用人を）おく， 雇う；（生き物を）飼う， ⑩確保する， 用意する， 残しておく， ⑪《未完了表現で》保つ；（知識・財産・武器などを）保有する；（感情を）もつ；（権利などを）保持する；保管する；（関係を）保つ， 維持する。
[町田 1997 : 338–341]

上記のように rakhnaa は ‘put, keep’ を中心にさまざまな意味を持ち、その一つに所有の意味が認められる。継続的に何かを（手元あるいはそばに）「置く」「保持する」ことは語用論的に所有を含意するため、rakhnaa がその含意を手掛かりに所有を表すようになるのは自然なことである。本稿では他動詞 rakhnaa を用いた所有表現を Heine [1997a] の所有構文の類型（2節）に照らし、Action Schema に基づく所有表現と考え、記述を行う。

次節では未完了表現（rakhnaa の未完了分詞 + 助動詞 honaa の変化形）を中心に rakhnaa が表す所有概念を見ていくが、rakhnaa は所有の状態だけでなく、非所有状態から所有状態への変化も表すことができる（下例（24）–（26）。これらの rakhnaa は存在動詞 honaa に置き換えることはできない）。

(24)	har	vyakti=ko	nijii	raay	rakh-ne=kaa	adhikaar	
	各	個人=DAT	個人的な	意見.F.SG	rakhnaa-INF.OBL=GEN.M.SG	権利.M.SG	

18 rakhnaa は多義語であり、McGregor [1993] は 19、古賀・高橋 [2006] は 20 の語義を立てている。

hai.

存在する.PRS.3SG

「だれもが個人的な意見を持つ権利がある」 [BBCH060730_abhinav_interview]

- (25) parmaaNu hathiyaar na rakh-ne=kii jaapaan=kii
 核 兵器 NEG rakhnaa-INF.OBL=GEN.F 日本 =GEN.F
 niiti=mē badlaav nahī aa-egaa.
 方針.F.SG=LOC 変化.M.SG NEG 来る-FUT.3.M.SG
 「核兵器を持たないという日本の方針に変わりはない」

[BBCH061010_nkorea_china]

- (26) aaśaa rakh-o.
 希望.F.SG rakhnaa-IMP
 「希望を持ちなさい」

[HJD0102I]

(3) rakhnaa が表す所有概念

本節では Heine [1997a] の所有概念の類型 (2. (2) 節) に基づき, rakhnaa (主として未完了表現) が表す所有概念を分析する。分析にはコーパス¹⁹の用例を用い, インフォーマント調査も行った。不適格な文 (*でマーク) はインフォーマントの判断による。

抽象的所有 (ABST)

コーパスで rakhnaa を含む文を抽出・分析したところ, 全 4397 例中 268 例が所有表現と認められた。このうち 251 例 (93.7%) が抽象的所有 (所有物は目に見えない無形の概念) であり, rakhnaa が所有表現に使われる場合, そのほとんどが抽象的所有であることがわかった。

- (27) pratyek musalmaan apne jiivan=mē ek baar haj
 各々の イスラム教徒.M.SG REFL.GEN 生涯.M.SG=LOC 一 回 メッカ巡礼
 kar-ne=kii icchaa rakh-taa hai.
 する-INF.OBL=GEN.F 願望.F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「イスラム教徒は皆, 一生に一度メッカに巡礼する願望を持っている」

[BBCH060113_stampede_hajj_day2]

- (28) bhaarat=ke log paRh-ne=mē bahut ruci
 インド=GEN.M.PL 人々 読む / 勉強する-INF.OBL=LOC 多くの 興味 / 関心.F.SG

19 BBC Hindi の記事 (約 1700 本) および Web 上で公開されているヒンディー語の文学作品 (短編小説を中心に約 500 点) をテキスト形式で保存したもの (24.62MB)。BBC Hindi の文章は英語の影響が強く, 不自然あるいは下手なヒンディー語であるという批判もあるが, 現代のヒンディー語の一つとして用例分析に用いた。なお, 本稿で挙げた 9 例中 5 例 ((22), (24), (29), (31), (32)) はインド系の名前の署名記事 ((24) と (29) はインタビュー) である。

rakh-te hāī.
rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.3PL

「インドの人々は読書に大変興味を持っている (=勉強好きである)」

[BBCH050627_india_book]

所有物（抽象名詞）は上例の icchaā 「願望」, ruci 「興味／関心」以外に, aaśaa/ummiid 「希望／期待」, aasthaa 「確信」, iraadaa/manśaa 「意図／考え」, jñaan 「知識」, raay 「意見」, vicaar 「考え」など思考に関するものが多いが²⁰, 他にも adhikaar 「権利」, anubhav 「経験」, arth/maanii 「意味」, aadat 「習慣」, kSamtaa/yogyataa 「能力」, pahcaan 「特徴」, mahatva 「重要性」, śakti 「力」, sambandh/taalluq 「関係」, sanskr̥ti 「文化」, saahas/himmat 「勇気」など, さまざまな抽象的所有に rakhnaa が用いられる。

(29) kaśmiir=kaa suufi sāgiit apnii ek xaas
カシミール=GEN.M.SG スーフィー 音楽.M.SG REFL.GEN.F.SG 一 特別な
pahcaan rakh-taa hai.
特徴.F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
「カシミールのスーフィー(イスラム教神秘主義)音楽は独特の特徴を持っている」

[BBCH060411_kashmiri_sufi]

(30) māī us=kii qiiimat cukaa-ne=kii haisiyat nahīī
1SG 3SG.OBL=GEN.F 代価.F.SG 支払う-INF.OBL=GEN.F 財力.F.SG NEG
rakh-tii.²¹
rakhnaa-IMPF.F.SG
「私にはその代価を支払う力量がない」

[HJD11311]

したがって, これらの「抽象名詞 + rakhnaa」は慣用句ではなく, rakhnaa が所有の意味を獲得していると考えられる。

永続的所有 (PERM)

rakhnaa は具体物の所有にはあまり使われない²²。コーパスには9例(3.4%) しかなく, 所有物のほとんどが財産(動産・不動産)か武器であった。(21)の「車」, (25)の「核兵器」の例も永続的所有(一般に所有者は所有物に対する法的な所有権を持つ)に該当する。

20 コーパスの用例では, aaśaa/ummiid 「希望／期待」計19例, ruci/dilcaspii 「興味／関心」計12例, vicaar 「考え」9例, icchaā 「願望」7例, iraadaa/manśaa 「意図／考え」計6例。

21 否定文の場合, 未完了分詞の後の助動詞 honaa はしばしば省略される。

22 具体物の所有は 'X ke paas Y honaa' 「Xの近くに Y がある」で表される。

- (31) ye vo log hāī jo meril liñc aur baRe baRe
 COR その 人々 COP.PRS.3PL REL メリル・リンチ AND 大きい 大きい
 bāīkō=ke śeyar rakh-te hāī.
 銀行 .M.PL.OBL=GEN.M.PL 株 .M.PL rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.3PL
 「メリル・リンチやメガバンクの株を持っているのはその人たちである」
 [BBCH080918_brajesh_diary_rp]
- (32) bhuu-hadbandii (land ceiling)=se adhik zamiin
 土地制限法 =ABL 多くの 土地.F.SG
 rakh-ne-vaale²³ bhuu patiyō=se atirikt zamiin
 rakhnaa-INF.OBL-vaalaa.M.PL.OBL 土地所有者.M.PL.OBL=ABL 超過した 土地 .F.SG
 le-kar…
 取る-CONJP
 「土地制限法（の規定）より多くの土地を持っている土地所有者から超過分の土地を取り上げ…」 [BBCH041007_agriculture_mkt]
- (33) aajkal=bhii yah log tüür-dhanuS rakh-te hāī.
 現在=も この 人々 矢-弓 rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.3PL
 「現在もこの人々は弓矢を持っている」
 [Hemant Joshi, *Anas Nadi Kyon Sukh gai ?*]
- (34) bhaarat=mē 100=mē pāāc=se=bhii kam log mobaail fon
 インド =LOC 100=LOC 5=より=も 少ない 人々 携帯電話
 rakh-te hāī.
 rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.3PL
 「インドでは携帯電話を持っているのは 100 人中 5 人に満たない」
 [BBCH041109_mobile_india]

物理的所有 (PHYS)・一時的所有 (TEMP)

rakhnaa の未完了表現は永続的所有を表すことはできるが、物理的所有や一時的所有は表せない。以下は rakhnaa が使用できない例である。

- (35) *is samay māī paise nahī rakh-taa, lekin gaaRii=mē
 今 1SG お金.M.PL NEG rakhnaa-IMPF.M.SG しかし 車.F.SG=LOC
 hāī.
 存在する.PRS.3PL
 「今、私はお金を持っていないが、車の中にある」

23 -vaalaa は名詞句、形容詞句を作る文法的要素。ここでは不定詞を名詞に接続する役割（連体修飾）を果たしている。

- (36) *kyaa tum maacis rakh-te ho?
 Q 2PL マッチ.M.SG rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.2PL
 「マッチ持ってる？」
- (37) *vah gaaRii rakh-taa hai, lekin us=kii
 3SG 車.F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG しかし 3SG.OBL=GEN.F
 nahii hai.
 NEG COP.PRS.3SG
 「彼は車を持っているが、彼のものではない」
- (38) *māī aap=kii kitaab rakh-taa hūū, lekin
 1SG 2PL.HON=GEN.F F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.1SG しかし
 ghar=par hai.
 家.M.SG=LOC 存在する.PRS.3SG
 「私はあなたの本を持っているが、(それは今) 家にある」

インフォーマントによれば, rakhnaa の未完了表現は習慣的／継続的な所有を表すため, 永続的所有には使用できるが, (35), (36) のように当該時点における所有(物理的所有)には使用できない²⁴。また, (37), (38) からわかるように rakhnaa は所有権のない所有(一時的所有)にも使うことができない²⁵。

分離不可能所有 (INAL)

〈身体部分〉

rakhnaa は baal「髪の毛」の所有に使われる(次例(39))。髪の毛は切ることができ(抜くこともある), 厳密には分離不可能な所有物ではない。しかし, 髪の毛は存在動詞 honaa を用いた所有表現では分離不可能所有の 'X kaa Y honaa' 「X の Y がある」で表されることから(40), 本稿では分離不可能所有の例として扱う。

24 (36) は「いつもマッチ持っていますか」という習慣的な意味で尋ねているなら適格となる。

25 ある査読者から次のような例は一時的所有と考えられないかというご意見をいただいた。

- (i) aarzii tau par baaqii sab apne paas rakh-ē.
 とりあえず 残りの 全て REFL.GEN 近く.OBL rakhnaa-SBJV.2.PL
 「とりあえず、残りは全部あなたが持っていてください」
- (ii) yah kitaab kal=tak apne paas rakh-ie.
 この 本.F.SG 明日=まで REFL.GEN 近く.OBL rakhnaa-IMP.POL
 「この本を明日まで持っていてください」
- 上記2例は文中に場所句 apne paas「自分の近くに」があるため, rakhnaa は「(自分の手元に)置く, 預かる」(町田 [1997: 338-341] の語義④)の意味に解釈される(次例)。
- (iii) is kitaab=ko apne paas rakh-ē rah-ie.
 この.OBL 本.F.SG=ACC REFL.GEN 近く.OBL rakhnaa-PFV.M.PL AUX-IMP.POL
 「この本を手元に置いといしてください」 [田中・町田 1986: 85]
 上例(i), (ii)の解釈についてインフォーマントにも確認を行ったが, 同様(「置く, 預かる」)の解釈であった。apne paas rakhnaa は語用論的な含意としては所有の意味に解釈できなくもないが, 文字通りの意味が残っており, 文法化した所有表現(上例(17)参照)とは言えない。

- (39) adhikaarii yuvaan thaan. lambe baal rakh-taa
 役人.M.SG 若い COP.PST.M.SG 長い.M.PL 髪の毛.M.PL rakhnaa-IMPF.M.SG
 thaan. aur gazlē gaa-taa thaan.
 AUX.PST.M.SG AND ガザル.F.PL 歌う-IMPF.M.SG AUX.PST.M.SG
 「(派遣された) 行政官は若かった。髪を長く伸ばし, ガザルを歌っていた」
 [Navin Sagar, *Tismarkhan*]
- (40) nitambō=tak lahraa-te ghane kaale baal
 尻/腰.M.PL.OBL=まで 波打つ-IMPF.M.PL 密な.M.PL 黒い.M.PL 髪の毛.M.PL
 thee us=ke²⁶
 存在する.PST.M.PL 3SG.OBL=GEN.M.PL
 「彼女は腰まで波打つ濃い黒髪をしていた」 [Roop Singh Chandel, *Uran*]

一方, 本当に分離不可能な身体部分に対する rakhnaa の使用はインフォーマントに許容されなかった。

- (41) a. *vah ek=hii Tāāg rakh-taa hai.
 3SG 一=だけ 足.F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「彼は片足だ」
- b. *vah baRe haath rakh-taa hai.
 3SG 大きな.M.PL 手.M.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「彼は大きな手をしている」

コーパスではプレームチャンド (1880–1936) の作品に以下の用例が見られた。

- (42) haakim=bhii āākh-kaan rakh-te hāī.
 長官=も 目.F.SG-耳.M.SG rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.3PL
 「長官も目と耳を持っている (=馬鹿ではない)」 [Premchand, *Bade Babu*]
- (43) ham kaan rakh-te hāī magar bahrē hāī,
 1PL 耳.M.SG rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.1PL しかし 聾の / 聾者 COP.PRS.1PL
 ham zabaan rakh-te hāī magar gūūge hāī.
 1PL 舌.F.SG rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.1PL しかし 噛の / 噙者 COP.PRS.1PL
 「我々は耳があっても聾であり, 舌があっても噛である」 [Premchand, *Prema*]

上例 (41) と (42), (43) の違いは修飾要素の有無である。角田 [1991: 151] は, 身

26 「彼女の腰まで波打つ濃い黒髪があった」という文の「彼女の」が文末に倒置されている。この文を分離可能所有を表す 'uske paas...thee.' 「彼女の近くに…あった」で言うことはできない。

体部分や属性で、普通、誰にでもあるもの（頭、目、足、性格、体重など）を「普通所有物」と呼び、（さまざまな言語で）修飾要素もないのに所有表現が成立する場合が2つあると述べている。

- ① その身体部分あるいは属性について、普通ではない、特別であると言う場合。即ち、特殊な意味を表す場合。

(44) He has an ear for music. / He has an eye for paintings.

「彼は音楽の観賞力がある／彼は油絵の審美眼がある」

[角田 1991 : 143 (7-135, 136)]

- ② その身体部分あるいは属性は普通であって、何等、特別なものではない。しかし、適切な文脈がある場合に限って使われる。

(45) (太郎が酔っぱらっている時に)

太郎は足があるんだ。自分で歩かせろ。

[角田 1991 : 153 (7-188)]

上例 (42), (43) は②のケースに該当する。これらの例が表しているのは物理的な身体部分ではなく、その機能や能力である (43) は比喩的な表現であり、本当の聾啞者のことではない。例えば、(舌があり) 話す能力があっても何かに抑圧されて言いたいことが言えないというような意味である)。

<親族>

血族に rakhnaa は使用できない。

(46) *māī do {bhaaii /bacce rakh-taa hūū.
1SG 二 兄弟.M.PL 子ども.M.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.1SG
「私には兄弟／子どもが2人いる」

しかし、配偶者については rakhnaa を使用できる (次例は可能表現 (rakhnaa の語幹 + saknaa) の例)。

(47) koi=bhii aajkal do biibiyāā nahī rakh sak-taa.
だれ=も 現在 二 妻.F.PL NEG rakhnaa できる-IMPF.M.SG
「今時だれも妻を2人も持つことはできない」 [HJD1131]

辞書の記述では、McGregor [1993] が rakhnaa の語義の一つとして 'to keep (a

concubine)’, 古賀・高橋 [2006] が「妻を持つ；娶る；結婚する；妾を持つ；妾を囲う；男を持つ」を挙げている。インフォーマントに確認したところ、上例の biibiyāā 「妻」を bacce 「子ども」に置き換えることはできず、次例のように他の表現に変える必要がある。

- (48) koii=bhii aajkal do bacce paidaa nahī̄ kar sak-taa.
 だれ=も 現在 二 子ども.M.PL 生まれた NEG する できる-IMPF.M.SG
 「今時だれも子どもを 2 人も持つことはできない (lit. 生むことはできない)」

以上のように、分離不可能所有における rakhnaa の使用は非常に制約がある。これは rakhnaa が「置く」という中心的意味の要素を保持しており、分離可能な所有物は所有者の意志で置く(所有する)ことができるが、分離不可能な所有物は所有者の意志で置く(所有する)ことができないからだと思われる。

無生物分離不可能所有 (IN/I)

無生物分離不可能所有(部分・全体の関係)は ‘X kaa Y honaa’ 「X の Y がある」で表すことができるが ((49))、rakhnaa は使用できない ((50))。

- (49) is kursii=ke tiin=hiī̄ pair hāī̄.
 この.OBL 椅子.F.SG.OBL=GEN.M.PL 三=だけ 脚.M.PL 存在する.PRS.3PL
 「この椅子は脚が三本しかない」 [Hook 1979 : 81]
 (50) *yah kursii tiin=hiī̄ pair rakh-tii hai.
 この 椅子.F.SG 三=だけ 脚.M.PL rakhnaa-IMPF.F.SG AUX.PRS.3SG

無生物分離可能所有 (IN/A)

X と Y (ともに無生物) が分離可能な場合、ヒンディー語には所有文として表す手段がなく(次例 (51) は存在文の解釈を受ける)、rakhnaa も使用できない ((52))。

- (51) is kamre=mē bahut kabaaRaa hai.
 この.OBL 部屋.M.SG.OBL=LOC 多くの がらくた.M.SG 存在する.PRS.3SG
 「この部屋にはがらくたがたくさんある」 [Verma 1997 : 117]
 (52) *yah kamraa bahut kabaaRaa rakh-taa hai.
 この 部屋.M.SG 多くの がらくた.M.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG

以上、本節ではヒンディー語の rakhnaa(主として未完了表現)が表す所有概念を明らかにした。存在動詞 honaa を用いた所有表現と合わせると、下表 2 のようになる²⁷。

27 honaa を用いた所有表現(上の 4 つ)とそれが表す所有概念は概ね相補分布している。抽象的所

表2 ヒンディー語の所有表現 (have 構文) とそれが表す所有概念

Construction	Source Schema	Kind of possession						
		PHYS	TEMP	PERM	INAL	ABST	IN/I	IN/A
ke paas - honaa	Location	+	+	+	-	+ / -	-	-
kaa - honaa	Genitive	-	-	-	+	+ / -	+	-
ko - honaa	Goal	-	-	-	-	+	-	-
mē - honaa	Location	-	-	-	-	+ / -	-	-
rakhnaa	Action	-	-	+ / -	+ / -	+	-	-

*rakhnaa は未完了表現による

(4) 存在動詞 honaa を用いた所有表現と他動詞 rakhnaa を用いた所有表現の違い

① rakhnaa は習慣的／継続的な所有を表す。

具体物の所有（分離可能所有）の場合、honaa は物理的所有、一時的所有、永続的所有を区別せず、すべて ‘X ke paas Y honaa’ 「X の近くに Y がある」で表す²⁸。所有物に関する制約もない。

一方、rakhnaa の未完了表現は本質的に習慣的／継続的な所有を表すため、永続的所有は表すが（ただし、所有物は財産や武器など一般的に価値のあるものに限られる）、物理的所有、一時的所有は表さない。こうした特徴は次例（分離不可能所有）でより明らかになる。

- (53) a. us=ke lambe baal hāī. (honaa)
 3SG.OBL=GEN.M.PL 長い.M.PL 髪の毛.M.PL 存在する.PRS.3PL
 b. vah lambe baal rakh-tii hai. (rakhnaa)
 3SG 長い.M.PL 髪の毛.M.PL rakhnaa-IMPF.F.SG AUX.PRS.3SG
 「彼女は長い髪をしている」

(53a) は以前はどうであれ、現在、彼女の髪が長いことを表すのに対し、(53b) は以前から髪が長いことを表し、「彼女はいつも長い髪をしている」、「彼女は髪を長く伸ばしている」という意味に近い。

② rakhnaa は所有の状態だけでなく、非所有状態から所有状態への変化も表す。

有については所有物（抽象名詞）の種類によって、構文の使い分けや重なり（どちらでも可）がある。

28 言語によってはこれら 3 つの所有概念を構文で区別する。例えばブルガリア語では、物理的所有と一時的所有は Location Schema に基づく構文で表し、永続的所有は Action Schema に基づく構文で表す [Heine 1997a : 232]。

honaa を用いた所有表現は「(あるものを) 所有している」という状態を表す。*rakhnaa* は未完了表現では *honaa* と同じく所有の状態を表すが、他の形式（例：不定詞形や命令形）で、「(現在所有していないものを) 所有する」という変化を表すことができる（上例（24）-（26）、（47）、次例（54））。これらの例の *rakhnaa* を *honaa* に置き換えることはできない。

- (54) nagrō=kii striyāā apnii aarthik śakti rakh-ne
 都市.M.PL.OBL=GEN.F 女性.F.PL REFL.GEN.F 経済の 力.F.SG rakhnaa-INF.OBL
 lag-ii hāī.
 始める-PFV.F AUX.PRS.3PL
 「都会の女性たちは経済力を持つようになってきている」 [HJD1131]

4. ウルドゥー語の所有表現

ウルドゥー語はパキスタンの国語であり、インドでもイスラム教徒が主としてウルドゥー語を話し、公用語の一つになっている。ウルドゥー語とヒンディー語は基本語彙と文法がほぼ共通しており、言語学的には同一の言語とされている²⁹。

(1) 先行研究

ウルドゥー語の文法書(鈴木[1981; 1996], Matthews and Dalvi [1999], Schmidt [1999])における所有表現の記述はヒンディー語の場合と同じで、所有は存在動詞 honaa を用いて表され、所有概念によって複数の構文が使い分けられる(honaa を用いた所有表現の例は割愛する)。

rakhnaa を用いた所有表現については、Hasan [1972]³⁰ の記述がある。Hasan [1972] は honaa を用いた所有表現に関連して、rakhnaa を用いた所有表現の例を挙げている（前者の訳に ‘have’ を、後者の訳に ‘own’ を充てている）。

- (55) kariim ek bhaaии **rakh-taa** hai.
 カリーム 一 兄弟.M.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「カリームには兄弟が1人いる (Kariim owns a brother.)」 [Hasan 1972:39(39i)]

(56) kariim baRii daulat **rakh-taa** hai.
 カリーム 多くの.F 財産.F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「カリームはたくさん財産がある (Kariim owns a lot of wealth.)」 [ibid.(40i)]

29 「両者の違いは、ウルドゥー語がペルシア文字を用い、語彙（主に専門用語）に、アラビア語、ペルシア語語源の借用語が多いのに対し、ヒンディー語はデーヴァナーガリー文字を用い、サンスクリット語語源の借用語が比較的多い点である」〔『言語学大辞典 第3巻 世界言語編(下-1)』〕「ヒンディー語」。両言語の文法的差異については Schmidt [2003: 293-294] を参照。

30 Hasan [1972] はインドのラクナウ (Lucknow: ウッタル・プラデーシュ州の州都。18世紀半ばから、デリーに代わるウルドゥー語・ウルドゥー文学発展の中心地となった) の知識階層のウルドゥー語を例にとっている。

- (57) kariim do āākhē **rakh-taa** hai.
 カリーム 二 目.F.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「カリームは目が2つある (Kariim owns two eyes.)」 [ibid. (41i)]
- (58) kariim aql **rakh-taa** hai.
 カリーム 知性.F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「カリームは知性がある (Kariim owns intelligence.)」 [ibid. (42i)]

Heine [1997a] の所有概念の類型によれば、(55) と (57) は分離不可能所有、(56) は永続的所有、(58) は抽象的所有に当たる。(56) と (58) はヒンディー語でも類例が見られるが、(55) の親族（血族）の所有は用例が見られず、（ヒンディー語の）インフォーマントにも許容されなかった。また、(57) の身体部分の例も修飾要素があるものは不適格とされた（上例 (41)）。しかし、Hasan [1972] は（英語の訳文の奇妙さとは関係なく）これらの文は適切な文脈が与えられれば（次例）、少しも奇妙に感じることなく使われると述べている³¹。

- (59) laRkaa ek nahī chah bahnē **rakh-taa** hai.
 少年.M.SG 一 NEG 6 姉妹.F.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「少年には1人ではなく、6人の姉妹がいる」 [Hasan 1972: 39]

(2) BBC Urdu の用例

次に実際の用例を見る。BBC Urdu の記事（約 1000 本）から rakhnaa を用いた所有表現を抽出したところ、ヒンディー語の場合と同じように、ほとんどが抽象的所有であった。使用頻度の高い所有物（抽象名詞）は以下の通りである。ヒンディー語の場合と同じく「思考」に関する語彙が多い（ただし、ペルシア語、アラビア語起源である）。

ixtiyaar 「権限／影響力」, iraadaa 「意図／考え」, ummiid / tavaqqa 「期待／希望」, ahmiyat 「重要性」, tajarbaa 「経験」, taalluq 「関係」, haq 「権利」, xaahiś 「願望／意志」, xayaal / raay 「考え」, dilcaspii 「興味／関心」, salaahiiyat 「力／能力」, maanii 「意味」, himmat 「勇気」, yaqiiin 「信頼／確信」

次例は永続的所有の例である。(61) の「学位」も一種の財産・武器と考えられる。

31 “That clause types (39i)-(42i) do not occur very frequently is not being denied; simply the point is being made that they are all grammatical and acceptable and that there is no oddity in their use.” (p. 39)

- (60) iiраan bam banaa-ne=kaa yuureniyam rakh-taa
 イラン.M.SG 爆弾.M 作る-INF.OBL=GEN.M.SG ウラン.M rakhnaa-IMPF.M.SG
 hai.
 AUX.PRS.3SG
 「イランは核爆弾を製造するためのウランを保有している」
 [BBCU090301_iran_nuclear_mullen_fz]
- (61) vo qaunuun=ke ſobe=mē Digrīi rakh-te hāī
 3SG 法律.M.SG=GEN 学部.M.SG.OBL=LOC 学位.F.SG rakhnaa-IMPF.M.PL AUX.PRS.3PL
 「彼は法学の学位を持っている」
 [BBCU061125_drugs_drinks_nr]

分離不可能所有の例は見られなかったが、新聞記事というデータの性質によるものと考えられる。

(3) インフォーマント調査

最後にインフォーマント（パキスタン・カラーチー出身）調査でわかった事実を記述する。

ウルドゥー語でも rakhnaa の未完了表現は習慣的／継続的な所有を表し、永続的所有には使用できるが（所有物の制約はヒンディー語の場合と同様）、物理的所有（(35), (36)）や一時的所有（(37), (38)）には使用できない。

分離不可能所有（身体部分）については、次例（62a）のように個別の事柄には使えないが、（62b）のように一般的な事柄には使える。

- (62) a. *vah ek=hii Tāāg rakh-taa hai.
 3SG 一=だけ 足.F.SG rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「彼は片足だ」
- b. insaan do Tāāgē rakh-taa hai.
 人間.M.SG 二 足.F.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「人間は 2 本足だ」

また、親族（血族）にも rakhnaa は使えないが（次例（63）³²、例えば子どもを使った物乞いの組織なら（64）のような言い方ができる（この場合の「子ども」は実子ではなく、分離可能である）。

32 分離不可能所有については、Hasan [1972]（上例(55), (57)）とインフォーマントの文法性判断は異なる。Hasan [1972] が挙げているウルドゥー語はペルシア語・ペルシア文学の影響を強く受けているラクナウの知識階層のウルドゥー語であり、上記の違いはウルドゥー語間の地域差（あるいは階層差）の例と考えられる。

- (63) *māī do |bhaaīi / bacce| rakh-taa hūū.
 1SG 二 兄弟.M.PL 子ども.M.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.1SG
 「私には兄弟／子どもが2人いる」 [(46) を再掲]
- (64) vo das bacce rakh-taa hai.
 3SG 10 子ども.M.PL rakhnaa-IMPF.M.SG AUX.PRS.3SG
 「彼には10人の子ども（手下）がいる」

無生物分離不可能所有（部分・全体の関係）は上例（62）同様、個別の事柄には使用できないが（(50)）、一般的な事柄について言う場合（例：「燕尾服はボタンが3つある」）には使用可能である。

無生物分離可能所有に rakhnaa を使用することはできない（(52)）。

5. まとめ

本稿では、英語の have に相当する所有動詞がないとされているヒンディー語・ウルドゥー語にも一種の所有動詞があり、他動詞文の所有表現があることを示した。また、それが表す所有概念を明らかにした。

Heine [1997a] は世界の多様な所有表現を文法化理論で説明し、その起点に8つのイベント・スキーマを設定している。このうち、Action Schema(X takes Y)は‘take’や‘hold’などの他動詞を用いる型であるが、ヒンディー語・ウルドゥー語の場合、rakhnaa ‘put, keep’が用いられる。

コーパスの用例分析とインフォーマント調査の結果、ヒンディー語の rakhnaa（未完了表現）を用いた所有表現に関して、次のことが明らかになった。

- ① Heine [1997a] が分類した7種の所有概念のうち、rakhnaa は主として抽象的所有 (ABST) に使われる。
- ② 所有物が分離可能な場合、rakhnaa は永続的所有 (PERM) には使用できるが（ただし、所有物に制約がある）、物理的所有 (PHYS) や一時的所有 (TEMP) には使用できない。
- ③ rakhnaa は分離不可能所有 (INAL) にはほとんど使われない（使用条件が限られる）。
- ④ rakhnaa は無生物分離不可能所有 (IN/I)、無生物分離可能所有 (IN/A) には使用できない。

ウルドゥー語の rakhnaa もほぼ同様であるが、Hasan [1972] およびインフォーマント調査によると、ヒンディー語に比べて分離不可能所有 (INAL)、無生物分離不可能所有 (IN/I) の許容度が高かった（下表3）³³。

33 ヒンディー語とウルドゥー語の違いを表すため、ウルドゥー語の INAL を‘+’、IN/I を‘+ / -’でマークした。

表3 ヒンディー語とウルドゥー語の rakhnaa (未完了表現) が表す所有概念

Construction	Source Schema	Kind of possession						
		PHYS	TEMP	PERM	INAL	ABST	IN/I	IN/A
rakhnaa (Hindi)	Action	—	—	+ / —	+ / —	+	—	—
rakhnaa (Urdu)	Action	—	—	+ / —	+	+	+ / —	—

rakhnaa を用いた所有表現は Hasan [1972] が述べているように（注31）それほど頻繁に使われない。しかしながら、rakhnaa は本稿で示したように複数の所有概念を表し、それぞれ honaa を用いた所有表現に言い換えられる（非所有状態から所有状態への変化は除く）ことから、一種の所有動詞と言うことができる。

今後の課題として、ウルドゥー語の文学作品や（新聞記事・文学作品以外の）さまざまな言語データから rakhnaa を用いた所有表現の用例を収集し、本稿の記述を精密化したい。また、本稿では rakhnaa の未完了表現を中心に論じたが、他の形式についても研究していきたい。

謝辞

本稿は日本言語学会第138回大会（2009年6月20-21日、神田外語大学）において、「ヒンディー語・ウルドゥー語の rakhnaa (put/keep) による所有表現」と題して口頭発表した内容に加筆・修正を施したものである。口頭発表の際、貴重なコメントをくださった Peter E. Hook 先生、町田和彦先生、Prashant Pardeshi 先生に厚く御礼申し上げる。本稿の執筆にあたっては杉浦滋子先生から懇切なご指導を賜った。また、3人の査読者からも本稿の改善に有益なご意見とご指摘をいただいた。末筆ながら記して深甚の謝意を表したい。

略号一覧

1,2,3= 人称 ; ABL= 奪格 ; AUX= 助動詞 ; CONJP= 接続分詞 ; COP= コピュラ動詞 ; COR= 相関詞 ; DAT= 与格 ; F= 女性 ; FUT= 未来 ; GEN= 属格 ; HON= 敬称 ; IMP= 命令 ; IMPF= 未完了 ; INF= 不定詞 ; LOC= 所格 ; M= 男性 ; NEG= 否定 ; OBL= 斜格 ; PFV= 完了 ; PL= 複数 ; POL= 丁寧形 ; PRS= 現在 ; PST= 過去 ; REFL= 再帰代名詞 ; REL= 関係詞 ; Q= 疑問標識 ; SBJV= 仮定法 ; SG= 単数
(グロスのハイフン ‘-’ は形態素境界、等号 ‘=’ は接語境界を表す)

用例出典

BBCH : BBC Hindi (<http://www.bbc.co.uk/hindi/>)
BBCU : BBC Urdu (<http://www.bbc.co.uk/urdu/>)
Gadya Kosh (<http://www.gadyakosh.org/>)
HJD : 古賀勝郎・高橋明（編），2006, 『ヒンディー語=日本語辞典』, 大修館書店, 東京.
Munshi Premchand's Stories (<http://munshi-premchand.blogspot.com/>)

参考文献

Agnihotri, Rama Kant, 2007, *Hindi: An Essential Grammar*, Routledge, London; New York.

- Bauer, Brigitte, 2000, *Archaic Syntax in Indo-European*, Mouton de Gruyter, Berlin; New York.
- Bendix, Edward Herman, 1966, *Compositional analysis of general vocabulary: The semantic structure of a set of verbs in English, Hindi, and Japanese*, Indiana University Press, Bloomington.
- Bhatt, Sunil Kumar, 2007, *Hindi: A Complete Course for Beginners*, Living Language, New York.
- Hasan, Ruqaiya, 1972, "The verb 'be' in Urdu", in John W. M. Verhaar (ed.), *The verb 'be' and its synonyms*, Part 5, (Foundations of Language, Supplementary Series, Volume 14.), Reidel, Dordrecht, pp. 1–63.
- Heine, Bernd, 1997a, *Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization*, Cambridge University Press, Cambridge.
- 1997b, *Cognitive Foundations of Grammar*, Oxford University Press, Oxford.
- Hook, Peter Edwin, 1979, *Hindi Structures: Intermediate Level*, The University of Michigan, Ann Arbor.
- 今村泰也, 2009, 「ヒンディー語の所有表現再考－類型論的観点からの考察－」, 『言語と文明』7, 麗澤大学大学院言語教育研究科, 千葉, pp. 17–39.
- Kachru, Yamuna, 1969, "A note on possessive constructions in Hindi-Urdu", *Journal of Linguistics* 6, pp. 37–45.
- 1980, *Aspects of Hindi Grammar*, Manohar Publications, New Delhi.
- 1991, "Experiencer and Other Oblique Subjects in Hindi", in Mahindra K. Verma and K. P. Mohanan (eds.), *Experiencer Subjects in South Asian Languages*, Stanford University, Stanford, California, pp. 59–73.
- 亀井 孝・河野六郎・千野栄一（編著）, 1988–1996, 『言語学大辞典』, 三省堂, 東京.
- 古賀勝郎・高橋明（編）, 2006, 『ヒンディー語=日本語辞典』, 大修館書店, 東京.
- 町田和彦, 1997, 『ヒンディー語動詞基礎語彙集』, 東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 東京.
- Masica, Colin P., 1976, *Defining a Linguistic Area: South Asia*, The University of Chicago Press, Chicago.
- 1991, *The Indo-Aryan Languages*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Matthews, David and Mohamed Kasim Dalvi, 1999, *Teach Yourself Urdu*, Teach Yourself, London.
- McGregor, R. S., 1993, *The Oxford Hindi-English Dictionary*, Oxford University Press, Oxford; Delhi.
- 1995, *Outline of Hindi Grammar*, Third edition, Oxford University Press, Delhi.
- Meillet, Antoine, 1923, "Le développement du verbe 'avoir'", In *Antidōron. Festschrift Jacob Wackernagel*, Vandenhoeck und Ruprecht, Göttingen, pp. 9–13.
- Mohanan, Tara, 1994, *Argument Structure in Hindi*, CSLI Publications, Stanford, California.
- Montaut, Annie, 2004, *A Grammar of Hindi*, LINCOM EUROPA, Muenchen.
- Schmidt, Ruth Laila, 1999, *Urdu: An Essential Grammar*, Routledge, London; New York.
- 2003, "Urdu", in George Cardona and Dhanesh Jain (eds.), *The Indo-Aryan Languages*, Routledge, London; New York, pp. 286–350.
- Sinha, Binod K., 1986, *Contrastive Analysis of English and Hindi Nominal Phrase*, Bahri Publications, New Delhi.
- Stassen, Leon, 2009, *Predicative Possession*, Oxford University Press, Oxford.
- 鈴木 炎, 1981, 『基礎ウルドゥー語』, 大学書林, 東京.
- 1996, 『ウルドゥー語文法の要点』, 大学書林, 東京.
- 高橋 明, 2003, 「ヒンディー語の所有表現」, 『月刊言語』32 (11), 大修館書店, 東京, pp. 52–53.
- 田中敏雄・町田和彦, 1986, 『エクスプレス ヒンディー語』, 白水社, 東京.
- 角田太作, 1991, 『世界の言語と日本語』, くろしお出版, 東京.
- Verma, Sheela, 1997, *A Course in Advanced Hindi*, Motilal Banarsi Dass Publishers, Delhi.

(2010. 1. 28 受理)

